

11/3-5 未滿

きょう25日は、国連の「女性に対する暴力撤廃の国際デー」です。12月10日の世界人権デーまでの16日間、「今すぐ女性に対する暴力を終わらせよう」をテーマに、世界各国でキャンペーンが行われます。日本政府も12月25日を「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間として、一人で悩むている人たちに相談窓口を知らせる呼びかけなどを強めています。

主張

女性への暴力撤廃

身体的または性的暴力、あるいはパートナー以外からの性的暴力を受けることがあります。

るより、取り組みが急がれます。暴力は男性に対するものも、もちろん許されません。それでも、特に国際マーをついた「女性に対する暴力」の撤廃を目指すのか。それはDVAや性暴力の問題とはジョンスター不平等の社会の問題があり、被虐的暴力の比率が非常に高い

抱うのが当たり前」「女性」ではなく、「男性」で働いて疲れた男性を癒やす役割がある」といった誤った認識が外見通念として無意識のうちにござり、男女の関係性をめがめてまいります。これが、女性への暴力や支配の温床となっています。

共产党が先の総選挙で掲げた政策を一つ一つ進めていくことが必要です。

支配と差別の構造を変えよう

卷之三

中華書局影印

四庫全書

卷之三

日本は主要国の中だ、国際化の流れに沿って、日本もまた世界の流れに沿って進んでいくべきだ。

ダ一不平等の構造を取り除くため
六集会、二つの組合、二つの社

性暴力根絶を目指すフラワーデ

女の賃金格差が生産性一歳当たりで、前年の1.6倍になりました。

ればなりません。

若者たちの行動—ジョンダー平等

妊娠相談件数も増えています。異な国でも、ひらついたものは、日本

夫婦別姓や同性婚を実現し、多様

か。誰が腰を打つ、女郎な

を抱え込まず、適切な支援がされ、にある「家事や育児は妻が大半

題決定の場に女性が控えめ。日本

社会へ、力を合わせましやう。